



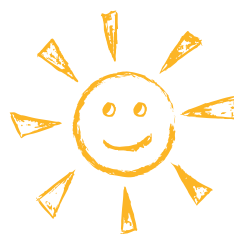
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Sustainable
Development
Goals

Bangkok Office
Asia and Pacific Regional Bureau
for Education

ハッピー スクール



アジア太平洋地域における学習者の幸福のためのフレームワーク

要約



Education
2030 

Published in 2020 by the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, 7,
place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, France

and

UNESCO Bangkok Office

© UNESCO 2020



This publication is available in Open Access under the Attribution-ShareAlike 3.0 IGO (CC-BY-SA 3.0 IGO) license (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/igo/>). By using the content of this publication, the users accept to be bound by the terms of use of the UNESCO Open Access Repository (<http://www.unesco.org/open-access/terms-use-ccbysa-en>).

Original title “Happy Schools! A Framework for Learner Well-being in the Asia-Pacific (TH/IQE/C3/16/006-500). Published in 2016 by the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization and UNESCO Bangkok.

The designations employed and the presentation of material throughout this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of UNESCO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries.

The ideas and opinions expressed in this publication are those of the authors; they are not necessarily those of UNESCO and do not commit the Organization.

Copy-editor: Ellie Meleisea (English version) and Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO and Sayaka Tsutsui (Japanese version)

Translation: Transcend Co., Ltd. and Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

Cover Photos and illustrations: © Yejoon (Jennifer) Yoo, © Estiawati Subair, © Debdatta Chakraborty, © Elodie Khan, © Kuntal Kumar Roy

Design/Layout: Warren Field (English version) and Job Barallas (Japanese version)

Illustrations: Aliénor Salmon

Graphics: Kathleen Sullivan

TH/DOC/IQE/20/035-JP



はじめに

すべての人間は幸せになることを熱望します。哲学者アリストテレスの、「幸福 は人生の意味および目標であり、人間存在の究極の目的であり狙いである」という言葉も有名です。人間はみな、この世に生まれ落ち、幸福を追求しながら人生を生きていきます。なかでも人が自らの生き方を決めて行く過程において、学校での経験は、幸福の実現にあたり重要な役割を担っています。私たちは、幸福を追求できる学校を「ハッピースクール」と呼び、幸福、健やかさ、そして将来の成功のカギとなるものと考えています。

学習者の幸福は、多くの外的および内的要因によって損なわれ、それらの要因はさらに我々の生活の質だけでなく、教育の質に対する見方にまで影響を及ぼします。

まず、格差や不寛容の拡大、暴力的な過激主義の台頭は不幸な社会をつくりだす外的要因となっています。その結果、学内ではいじめが増加し、同時に学外からは暴力的な攻撃の標的になるケースが増えてきています。技術的な進歩による世界の急激な変貌により、競争と「情報過多」がはびこり、国の経済発展においても、教育の成果においても、我々はますます「数字」重視の終わりなき競争に突き動かされています。

また、学習環境の不備、教育者の無関心、時代遅れなカリキュラム、教育内容やテスト結果の偏重といった学校制度の内的要因が、不幸な学校をつくりだしています。一方、学校、生活、職場において、幸福度を向上させるとされる要因や条件は、残念ながらほとんど重視されることがありません。こうした現状の中、幸福と教育の質の重要な関係について研究を行うため、ユネスコ・バンコク事務所は、2014年にハッピースクールプロジェクトを立ち上げました。「ハッピースクール: アジア太平洋地域における学習者の幸福のためのフレームワーク」報告書は、幸福と教育の質という二つの要素を結びつけることを目指し、既存の教育制度から転換して、幸福度の拡大に貢献する価値観、強み、能力を見直し、多様な才能や知性を受容するシステムを提唱しています。

本報告書は、いくつかの調査方法に基づき、アジア太平洋地域および世界の文脈の中での幸福理論や世界的な取組みを検証し、この地域の幾つかの国々の開発政策および教育政策において、幸福がどのように反映されているかを考察しています。そして、調査で明らかになった、22の基準から成るハッピースクールの枠組みと、学校レベルにおけるそれぞれの基準を実践するための取組みについても紹介しています。

¹ 英語版では、幸せ感としてのハッピー(happy)と健康や福祉を含めたウェルビーイング(well-being)を分けていますが、本稿では、主に「幸福」という用語を両方の意味で使用しています。



調査計画・方法

ハッピースクールプロジェクトの概念的枠組みは、広くユネスコの使命である教育を通じた平和の促進に由来しており、ユネスコの提唱する学習の4つの柱のうち、特に「共に生きることを学ぶ」と「人間として生きることを学ぶ」の2つを重視しています。また人間の様々な性質、強み、能力を高めるポジティブ心理学も、本枠組みの基盤となっています。

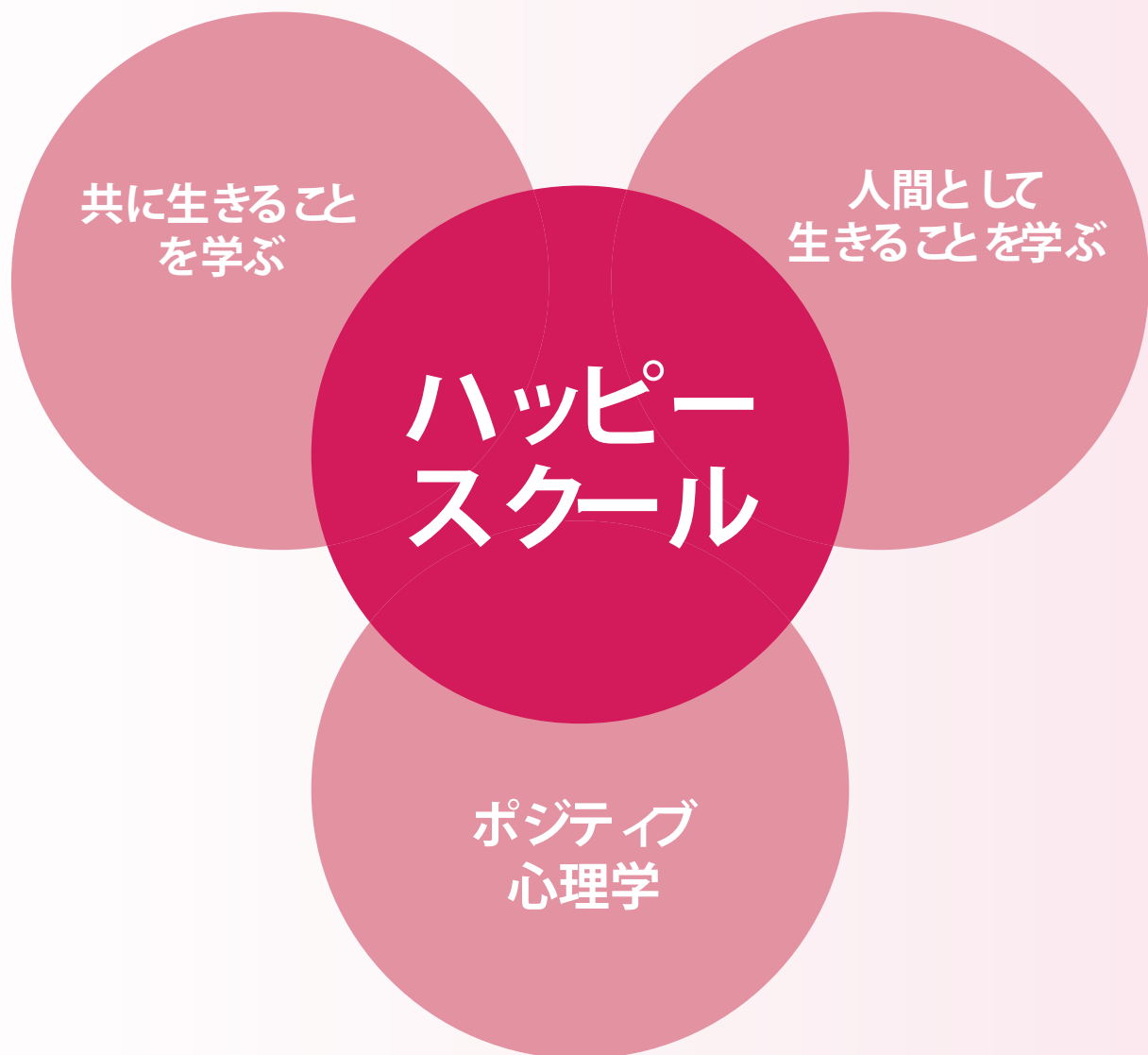


図1：ハッピースクール概念的枠組み



調査手法

ハッピースクールの枠組みは、ハッピースクールを特徴づける要因を、学校関係者の視点から理解するために、いくつかの質的調査で得られた結果を基にしています。調査に用いた手法は以下の通りです。

- **デスクスタディ**(実施期間:2014年6月-2015年11月)

仮説の設定を行うにあたり、学校の文脈における様々な幸福の定義や枠組みの文献調査を実施し、具体的なテーマを特定しました。

- **ASEANスクールワークショップ**(実施期間:2014年11月)

アセアン地域の9か国の学校の教師や生徒と、グループ活動を通して、ハッピースクールとはどのようなものかについて各々の考えを共有しながら、話し合いを行いました。

- **ハッピースクール調査**(実施期間:2015年1月-5月多言語で実施)

約30か国の主に生徒から得られた650以上の回答を分析、コード化し、調査結果から包括的なテーマを特定し、ハッピースクールの22の基準を導き出しました。

- **ハッピースクールセミナー**(実施期間:2015年6月)

6つの学校を選び、それぞれの経験や考えについて共有し、幸福な学校作りに資する有望で斬新な取り組みについて話し合いを行いました。セミナーの全体的な目標は、初期仮説の基準を満たす方策を作り、様々な文脈において導入できるよう、ハッピースクールの枠組みをさらに発展させることでした。

幸福に関する理論

幸福論は古代の哲学においても常に議題に上るテーマでした。古代からブッダやアリストテレス、孔子の教え、啓蒙時代から現代のポジティブ心理学の思想家に至るまで、幸福の定義は常に議論的でした。その議論の中には共通の事項が多くみられ、その共通項こそが、ハッピースクールの概念の中心となっています。

- **アリストテレス** は、教育を多面的に捉えた結果、4つの分野(1. 読み書き、2. 体操、3. 音楽、4. 図画)から構成されると想定しました。読み書き、図画は実用的な能力、体操は勇気という徳を育むためのもの、音楽は本質的な喜びであると述べています。



• **ヨハン・ペスタロッチ** は、子どもに包括的に焦点を当て、教育とは、3つの要因：頭（認知発達）、心（感情の発達）、手（物理的発達）、のバランスをとることであると考えました。

• **牧口常三郎** は、日本の教育者で、幸福の実現とは価値創造教育学の目標であるとしています。

• **ポジティブ心理学** では、「幸福を科学的に考察する」ことにより、幸福度を拡大する6つの美德が提唱されています。（図2参照）

• **ポジティブ教育** は、教育と幸福の関連性を説き、学業とその対となる人格と幸福を「二重らせん」と定義しています。

					
知恵&知識	節度	勇気	正義	卓越	愛&人間性
・創造性 ・好奇心 ・判断力 ・向学心 ・視点	・寛容 ・謙虚 ・賢明 ・自制	・勇気 ・忍耐 ・正直 ・熱意	・チームワーク ・公正 ・リーダーシップ	・審美眼 ・感謝 ・希望 ・ユーモア ・精神性	・愛情 ・親切心 ・社会的知性

図2：ポジティブ心理学の6つの美德

こうした幸福に関する多くの理論の中には、3つの重要な共通点があります。

1. 幸福とは、友情や他者との関係性を通じて得られる集合的なものである。
2. 教育とは、本質的に包括的であり多面的なものである。
3. 教育により幸福を得ることが出来る。また教育そのものが幸福の根源ともなりうる。

つまり、**私たちは幸せになるために学び、また学ぶことで幸せになる、**ということです。



世界の幸福への取組み

2011年、国連総会において、幸福を追求することは「基本的人権」とであると決議され、1年後、別の決議では、毎年3月20日を国際幸福デーと定めることが宣言されるなど、「幸福」は今、世界の政策議題で大きな注目を集めています。

また、持続可能な開発目標(SDGs)も、様々な目標において幸福の促進を説いています。教育の質を目標に掲げるSDG4は、ハッピースクールの概念と多くの面で関連性があります。特に、ターゲット4.7は、グローバル・シチズンシップ(地球市民)教育や平和の文化を通じ、持続可能な開発を促進する知識やスキルの習得の重要性に着目しています。人間の行動や、創造性、共感、チームワークやコミュニケーションなどの特性に関連して強調されるスキルは、ポジティブ心理学で言う、幸せ感とウェルビーイングの向上に必要とされる「性格の強み」を反映するものです。これらのスキルはさらに、「共に生きることを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」という、ユネスコのも概念にも表れています。「共に生きることを学ぶ」が「他者を理解すること」である一方、「人間として生きることを学ぶ」は「学習者の性格と表現力の“豊かさ”」に焦点を当てています。



図3：世界の幸福への取組み

この他にも、世界幸福度報告書、地球幸福度指数、世界価値観調査やより良い暮らし指標等の国際指標を使用して、各国の幸福度を測定する試みが世界的に行われています。同様に、生徒の幸福度を測定し、幸福度と学習成果の関連性を研究するため、国際的に生徒の学習到達度を測る主要な調査の一つであるOECDによる生徒の学習到達度調査(PISA)においては、2012年に生徒の幸福度を測る指標が盛り込まれ、2018年には幸福と学習成果の関連性についての研究が行われました。

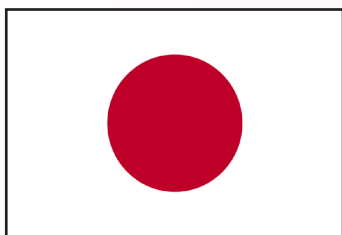


政策における幸福

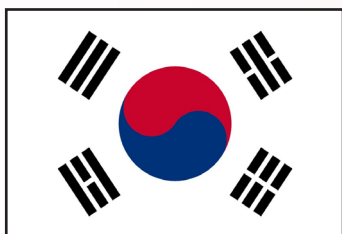
近年、様々な国々が幸福を開発政策や教育政策の具体的な目標に掲げ、幸福に関連する要素を政策の枠組みに取り入れています。



ブータンでは2011年国民総幸福量(GNH)の教育政策において、教育をGNH達成のための手段と位置づけ、特に持続可能性を重視しています。



日本では、内閣府が2010年に幸福度に関する研究会を設置。子どもにも増加している精神的な問題やストレスの問題を受けて、2012年に第1回の生活の質に関する調査を実施しています。



韓国では、「すべての人に幸せな教育を：創造的な才能が未来をつくる」政策を採用。試験を行わない学期、人格形成、暴力のない学校といった方策を導入しています。



シンガポールでは、人格・市民性教育の一環として社会性と情動の学習(SEL)を導入しています。



バヌアツでは、学校内での幸福感を促進する国家カリキュラム声明を出し、「共に生きるために学ぶ」概念に根差す様々な能力開発をしています。また、2012年にはメラネシアにおける幸福の代替指標を取り入れる試みを実施しました。

上記5つの国々を比較してみると、ブータンとバヌアツでは地域の文化的価値観を重視し、それらが国の持続的な発展に欠かせない要素であることを強調するために幸福を政策に盛り込んでいます。一方、日本、韓国、シンガポールでは、主に学力偏重とその結果増加している生徒の精神的負担に対する懸念の対応策として幸福の推進を提唱しています。



ハッピースクール調査結果

本研究では様々な調査が実施されましたが、生徒、教師、保護者、校長等学校レベルの関係者がハッピースクールをいかにとらえているかを明らかにするという目的で実施された、「ハッピースクール調査」は特に重要な調査となりました。この調査では、以下の主な4つの質問の回答を重視しました。

1. 学校を幸せな場所にする要因は何か
2. 学校が不幸せな場になる要因は何か
3. 教えること、学ぶことを楽しめるようにするにはどうすれば良いか
4. すべての生徒たちが受け入れられていると感じられるようにするにはどうすれば良いか

調査結果は以下のようになりました。



図4:ハッピースクールの上位5要因



図5:学校が不幸せな場になってしまう上位5要因



図6:学校で教えること、学ぶことを楽しくする上位5要因



図7:生徒が受け入れられていると感じることができる上位5要因

ハッピースクールの枠組み

ハッピースクールの枠組みは、調査結果から得られた学校関係者の声と視点を反映す形で、作成されました。この枠組みでは、幸せを構成する要素として、3つの主なカテゴリー：人(People)、過程(Process)、場所(Place)に分類される22の基準を設けています。それぞれの基準には共通する項目も多く、相互補完的な関係にあります。



People 人



学校コミュニティにおける友情と人間関係



教師のポジティブな態度と特性



多様性と違いの尊重



ポジティブで協調的な価値観と実践



教師の労働条件と幸福度



教師のスキルと能力



Process 過程



適正で公平な仕事量



チームワークと協調精神



楽しく魅力ある教え方と学び方



学習者の自由、創造性と参加



達成感



課外活動と学校行事



生徒と教師がチームとなって学ぶ



学習内容の実用性と妥当性



精神の健全とストレス管理



Place 場所



温かく友好的な学習環境



いじめのない安全な環境



開放的で自然のある学習および遊びの空間



学校のビジョンとリーダーシップ



ポジティブな規律



良好な健康、衛生、栄養状態



民主的な学校運営



人

3つのカテゴリーの中で、人間関係や社会的関係性を意味する「人」は特に重要です。様々な調査の結果、回答者が最も重要と答えたのが、他者との関係と交流でした。特に、保護者や地域、ポジティブな価値観や態度を持つ教師と良い関係性を築くことや、愛情、共感、寛容性、尊重など積極的で協働できる価値観や実践の重要性が強調されました。この結果を受け、幸福を推進するための「人」のカテゴリーにおける6つの基準に基づき、以下の取組みが提案されました。

- 学校を地域に「開放」することで保護者の参加を推進する
- 学年の垣根を超えたクラブ活動等を導入する
- 校区外他校との活動を実施する
- 学校環境において、家族という意識を構築する
- 教師を雇用する際、また評価する際には教師の性格や態度、倫理観を重視する
- 生徒が教師に対するフィードバックを行えるようなシステムを構築する
- 学校内外で、異なる文化を学ぶ機会を設ける
- 他者への共感力や理解力を深めるためロールプレーやディスカッションを行う
- 多様な宗教や言語について学ぶことで他者への理解を深める
- 協働学習を通して、特別支援が必要な生徒を取り残さないようにする
- ポジティブな価値観、態度、実践力を備える
- 様々な教科で、複数の目的を持つ学習を導入する
- 教師や、彼らの学校や社会への貢献を評価し、賞賛する
- 学校間のネットワークや相互支援を通して教師のスキルや能力強化を図る





過程

「過程」とは、学習者の幸福感を高めることができるような指導法と学習法のことを指します。調査の回答者は、より適正で公正な業務量の必要性、自由に学んだり間違ったりしながらも意見を言える環境の重要性、実用的で適切な魅力のある学習内容の保障を重視しています。幸福を推進するための「過程」のカテゴリーにおける9つの基準に基づき、以下の取り組みが提案されました。

- 標準化されたテストや試験を減らす
- 宿題を選択可能な活動に替え、学びを広げる
- 学習の学術的側面以外の学びを評価する
- 入学試験に学術的要素以外の内容を取り入れる
- 他者と協力して問題解決できるようグループワークを導入する
- 多様なチームワーク学習活動を導入する
- 代替となる学習方法の可能性を探る
- 学習過程の重要な一環として間違いも評価する
- 生徒に積極的に質問をするよう指導する
- ポジティブな反応や社会的な評価を与える
- 「夢の地図」をつくる
- 学校のコンテストを通して賞や報奨の機会を導入する
- 個別指導の代わりとなる活動を放課後に取り入れる
- 学校において集団の一員としての感覚を養うため、学校行事を企画する
- 生徒をメディア関連のクラブに参加させる
- 教科書の代わりに協働学習を取り入れる
- 学習内容が応用できるものであるようにする
- 学習をより学際的にする
- 校内に精神科医やカウンセラーを配置する
- 学校の幸福を推進するプログラムを導入する
- 今起こっている事象に注意を向けられるよう、マインドフルネス(瞑想)を導入する
- ストレス管理に対する助言を行うために、ビジュアル資料を活用する





場所

3つ目のカテゴリーである「場所」とは、学校環境と校風を指します。学校とはポジティブでハッピーな環境でなければなりません。調査の回答者は、学校をそのような場にするために、あたたかく友好的な学習環境を作り出す方法としてすぐに実践できる笑顔や挨拶の大切さや、近年増加傾向にあるいじめ対策の必要性と共に、学校運営やリーダーシップとビジョンの重要性を挙げています。このカテゴリーの7つの基準に基づき、以下の取組みが提案されました。

- 学習や遊びを共に行うことで生徒間の交流や協力意識を高める
- 「仲間ベンチ」を設置する
- 挨拶や笑顔を大事にする
- 教室間の壁を撤去する
- 学校のチャイムを音楽にする
- 創造的でカラフルな掲示物・展示物等を使う
- リラックスでき、創造性を高める空間をつくる
- 学校庭園を作る
- 学習や遊びの場として屋外を活用する
- 幸福に重点を置いた学校像を目指す
- 懲罰の代わりに、感情の制御能力を育成する建設的な活動を取り入れる
- 教室内での満足遅延耐性 (Delayed Gratification: 将来のより大きな成果のために、自己の衝動や感情をコントロールし、目先の欲求を辛抱する能力) の育成を目指した活動を導入する
- 校内食堂で健康的な食事を提供する
- 栄養士を雇用する
- 校区地域の清掃作業を企画する
- 生徒に一日校長を務めさせる





考察、次のステップと結び

本調査の結果、教育とは、幸福を促進する基盤となることが明らかになりました。学習者の個性や強みを活かせるような教育制度を実現するには、制度の根本的な改革が必要です。

- 幸福と学校の質は切り離せないものです。幸福を重視することで、学習成果の向上も期待できます。
- 教育の質を「数字」だけで捉える考え方は、幸福を推進する際に障壁となり得ます。
- 新しい時代を切りひらく「ポジティブな教師」の育成のために、幸福を重視した国の政策や教育政策が不可欠です。また、生徒たちが幸福を育むために必要な価値観、強み、能力を評価方法に取り入れることも必要となってくるでしょう。

結びとして、今回の調査結果により、現行の政策や実践を見直す必要があるということが明らかになりました。学校制度における幸福を推進していくには、学習内容や指導法、評価方法等を見直さなければなりません。生徒たちの幸福感が高まることによって、社会全体、そして世界全体の幸せに繋がると信じ、政策レベル、学校レベル双方で、生徒たちの幸せを促進できるような学習を行うために、教育関係者たちにはそういった学習に時間や空間を投資する決断が求められています。

次のステップ

ハッピースクールプロジェクトの第2段階では、この枠組みを地域レベル、国レベルで実施するため、以下の活動を予定しています。

- 学校の管理職層や、教師、指導者のためにハッピースクール実施ガイドラインを作成する。
- 教室・校内で幸福感を高めるため、教師や学校の管理職層に対して研修を実施する。
- 国の教育政策や計画として実施されるよう、根拠に基づいた議論や研修、会議を企画する。



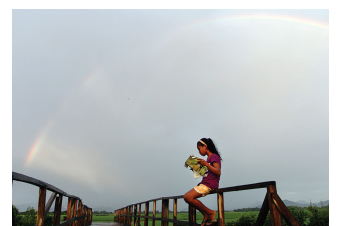
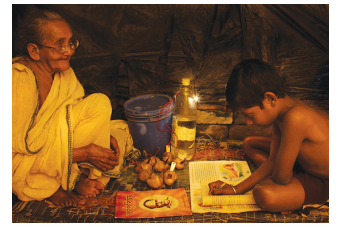
ハッピースクールプロジェクトは、2014年6月に学習者の幸福感を高め、学校全体の質向上を目指して始まりました。2016年に発行された報告書 Happy Schools! A Framework for Learner Well-being in the Asia-Pacific(<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000244140>より英語版のダウンロード可能)では、ハッピースクール実現に向けた22の項目と、学校における斬新な実践例が紹介されています。昨今の、競争的で、ストレスが多く、そして試験中心の世の中において、ハッピースクールプロジェクトは、異なった視点からの教育の質を提示し、学習者の多様な才能や強みを尊重し育てることを目指しています。

この報告書要約は、ユネスコアジア太平洋地域教育局(ユネスコ・バンコク事務所)により作成されました。日本語版についての照会は以下までお願いします。

ユネスコ・アジア文化センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル

E-mail: webmaster@accu.or.jp



UNESCO Bangkok Office
Section for Inclusive Quality Education
Mom Luang Pin Malakul Centenary Building

920 Sukhumvit Road, Prakanong,
 Klongtoei, Bangkok 10110, Thailand

 iqe.bgk@unesco.org
 +66 2 391 0577

 <https://bangkok.unesco.org>
   @unescoBangkok

